

# 徳川家康公 と駿府

Tokugawa Ieyasu in Sumpu

元常葉学園大学教授

織田元泰氏

Motoyasu Oda



経歴

1937年、静岡市生まれ。東京教育大学文学部卒業。静岡県立高校教員を経て、静岡県教育委員会では県史編さん事業に従事。その後、県教育委員会総務課長、静岡城北高校長、沼津東高校長、静岡市教育長、常葉学園大学教授等を歴任。専攻は近世城下町研究。共著に『駿府の城下町』『静岡県の百年』等。

## 家康がつくった先見性豊かな駿府城下町

現在の静岡市中心街は、徳川家康が骨格を作った駿府城下町が前身である。家康と駿府の関係はきわめて深く、七十五年に及ぶ生涯の三分の一は駿府を居住地とした。

最初は今川氏の人質だった幼少期から青年期にかけての十二年間。次は駿遠三甲信の五か国を領有し戦国大名の雄となった壮年期の五年間。最後は將軍職を秀忠に譲り、駿府城に隠退した慶長十二年（一六〇七）から逝去する元和二年（一六二六）までの晩年の十年間である。この時期の家康は、諸大名や外国使節の表敬をうけるとともに、大御所として幕政に君臨し、駿府は事実上の日本の首都であった。

駿府の町づくりについては、慶長十四年（一六〇九）駿府の有力町人の助力のもと

「町割」まちわりが行われたという記録があるが、実際には家康の駿府城隠退の前後には着手されていたと考えられ、家康にふさわしく民政に配慮した先見性豊かなものであった。

その第一は、賤機山西麓の妙見下から弥勒・中野新田に至る通称「薩摩土手」の築造である。長さ四・三km余、高さ五・五mの大規模なもので、これによって安倍川の流れは西方に追いやられて藁科川と合流し、駿府城と駿府の町は安倍川の水害から守られることになった。薩摩土手の称は薩摩藩の御手伝普請を思わせるが、明確な資料は確認されていない。

第二は駿府用水といわれる水路の整備である。安倍川に三か所の水門を設けて取水し、清冽な水は街区を貫流して市街地では防火用水として、下流の農村では農業用水

図]土佐光成作 18世紀初頭 原本所蔵:駿府博物館(公益財団法人 静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団)